

タイトル：2025 年度 教育セミナー（第 21 回）

日時：2025 年 9 月 18 日（木）～21 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 大会議室（303）

榎 茉莉（九州大学人文科学府歴史空間論専攻修士 1 年）

この度は、四日間にわたる「中東☆イスラーム教育セミナー」に参加させていただき、誠にありがとうございました。

今回は自らの研究発表の機会こそなかったものの、他の参加者のご発表を通じて、スライド資料の工夫、スピーチにおける話し方やタイムマネジメントの工夫といった技法面に加え、一次資料の選定や独自の問題関心の設定方法に至るまで様々なことを学ばせていただきました。同時に改めて自分自身の研究の方向性の曖昧さが浮き彫りになる四日間でもありました。私は現在、トルコ共和国におけるビザンツ史への歴史認識とナショナリズムの問題を研究しておりますが、これに関してさらに先行研究を深く読み込み、その検討されていない点を特に掘り下げる必要があると痛感させられました。

また、私は本格的にイスラーム地域の研究に取り組み始めたのが修士からだったこともあり、参加当初は発表内容を十分に理解できるか不安を抱えていました。しかしながらいずれの発表も極めて興味深く、特にマレーシアのイスラーム経済や現代ウズベキスタンやチュニジアのジェンダーといったテーマに関しては極めて強く関心を惹

かれました。学生や教員の皆様方の貴重な発表内容に対して積極的に質問ができるようになったことは、このセミナーにおける自身の成長の証となったと思います。中には十分に質問をできなかつた講演もありましたが、これらに関しては発表後に報告者の方々に直接、ないしは Slack 上で質問をするなどといった工夫を重ねることで学びを深めました。

さらに、本セミナーでは AA 研および他大学の研究者の方々と接する機会にも恵まれ、イスラーム圏のさまざまな地域に関する知見はもちろん学習面でのさまざまなアドバイスも頂戴いたしました。特に東京大学東洋文化研究所の秋葉淳先生や AA 研の黒木英充先生、そして野田仁先生からは、テーマの方向性や観点の変更、そして修士で求められる研究水準などに関して、先生方個人の経験も踏まえた貴重なご助言をいただきました。

また、他大学の学生の方々とも交流する機会も多く、互いの悩みを共有し合うのはもちろん、さまざまな地域や学問分野を対象とする彼らと接することで自分の専門以外の地域の事情や他大学の事情などに関して自らの知見を広げる機会を得ることができました。

最後に、今回は研究が十分に進展しておらず発表の機会はなかったものの、今後はさらに研究を進展させ、次回のセミナーでは可能であれば受講生発表も行いたい所存

です。このような学びの場に参加させていただきましたこと、AA 研の職員及びスタッフの皆様方に心より感謝申し上げます。